



「尚徳」6月号 第549号 平成30年6月27日

鳥取大学附属小学校 学校便り

<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>

題字「尚徳」は、住川英明 附属学校部長 (元校長)



鳥取市，地震は大丈夫？

校長 小玉 芳敬

6月18日午前7時58分頃、大阪北部を最大震度6弱の地震が襲いました。鳥取市でも震度3を記録し、附小では教員の指示に従い、児童が校庭に避難して、その後体育館に移りました。地震のエネルギーを示すM(マグニチュード)は6.1と比較的小規模な地震であったにもかかわらず、大阪では強振となりました。

兵庫県南部地震(1995.01.17)以降、日本列島は地震の活動期に入ったと言われていいます。この活動期は数十年続き、最後に南海・東南海・東海地震が起こるシナリオが編まれています。日本列島に暮らす我々には避けて通ることができない地球の営みです。

下の図は産総研の活断層マップに関東大震災(1923年)以降の主な被害地震をプロットしたものです。M7以上の地震では多くの場合、地表部に断層が現れます。このような断層地形を手がかりに描かれたのが活断層マップです。

鳥取市周辺に目を向けると1943年の鳥取地震(M7.2)では、①吉岡断層と②鹿野断層が動きました。これらの活断層は、エネルギーを開放したため今後千年くらいは大規模な地震の心配はほぼありません。しかし鳥取市南部には③岩坪断層が、東部には④雨滝一釜戸断層が走っています。断層は長さに比例して大規模な地震を起こすと考えられています。この点からは、⑤山崎断層や⑥養父断層は要注意です。

このようにリストアップされている活断層は、M7以上の大規模な起震断層です。つまり鳥取県中部地震や大阪北部地震のようにM6程度の地震については、十分にリストアップできておりません。しかしM6規模であっても、内陸直下型地震では最大震度5強や6弱の強震を覚悟しなくてはなりません。

地震の活動期に入った現在、命を守るための避難訓練は、ますます重要性を高めています。児童の引き渡し訓練等、今後も積極的な参加をお願い申し上げます。

